

港湾の耐震性能の強化により 製紙業の活動を支える (北海道苫小牧市)

事業者：国土交通省 北海道開発局 苫小牧港湾事務所

II-1 電力等エネルギー供給の確保



地盤改良工事実施状況



コンテナ埠頭の液状化状況
(H30北海道胆振東部地震)

II-2 食料供給、ライフライン、サプライチェーン等の確保



対策名： No.151 全国の主要な内貿ユニットロードターミナルに関する緊急対策

事業名： 苫小牧港西港区商港地区複合一貫輸送ターミナル整備事業

- ポイント**
- 3か年緊急対策により港湾の耐震対策を前倒し実施
 - 被災時においても、道内製紙業及び関東地方の紙需要を支える

地域の概要・課題

苫小牧港は、北海道の港湾貨物の約半数を取り扱う物流拠点です。

平成30年北海道胆振東部地震では、苫小牧港のコンテナ埠頭の液状化や臨港道路の亀裂が発生しました。

RORO船航路は翌日よりほぼ平常どおり運航されましたが、災害時においても、これら船舶が確実に物流機能を果たせるよう、岸壁の耐震性能を強化する必要があります。

事業の概要

RORO船が係留する岸壁の耐震性能を強化するため、地盤改良工事を行いました。物流の大動脈であることなどを踏まえ、3か年緊急対策として事業を前倒し実施しました。

【見込まれる効果】

今後、当地で推定される最大級の地震が発生した場合でも、軽微な修復により、RORO船等の物流機能の確保が可能となりました。

これにより、被災時においても、道内製紙業及び関東地方の紙需要を支えることができます。



RORO船の運行状況（イメージ）

II-3 陸海空の交通ネットワークの確保

II-4 生活等に必要な情報通信機能の確保